

なる。

その後適当に楽しませてくれる滝がかかり、遡行を続けていくと周りはブナ林に変わる。水も濁れ、緩傾斜地となったところで遡行終了とする。

(記)

[タイム] 林道終点(8:00)→岩茸沢出合(8:15)→二俣(9:10)→遡行終了(11:00)

蒲生川本流

1996年7月27日

1

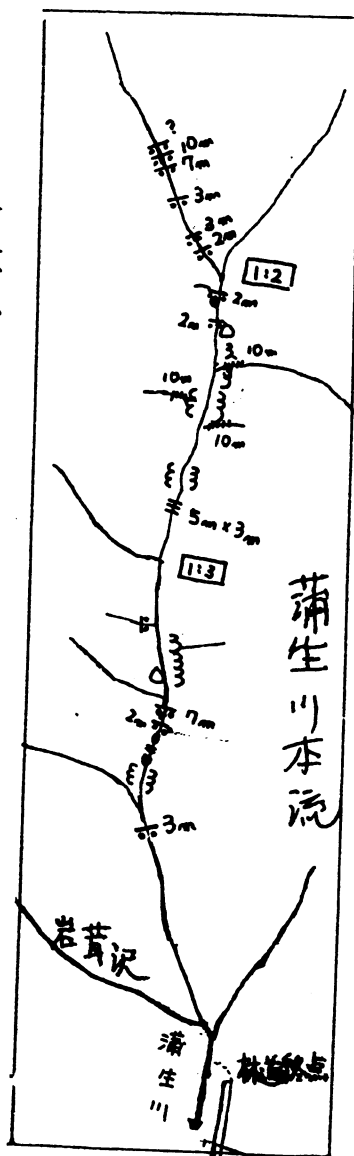
岩茸沢に入るパーティと別れ、平坦な河原を30分ほど歩くと、小さなゴルジュ帯。ここにナメ滝でつながったプールがあり、左岸のへつるが手強い。わずかなひっかかりに足をのせ、シューズのフリ

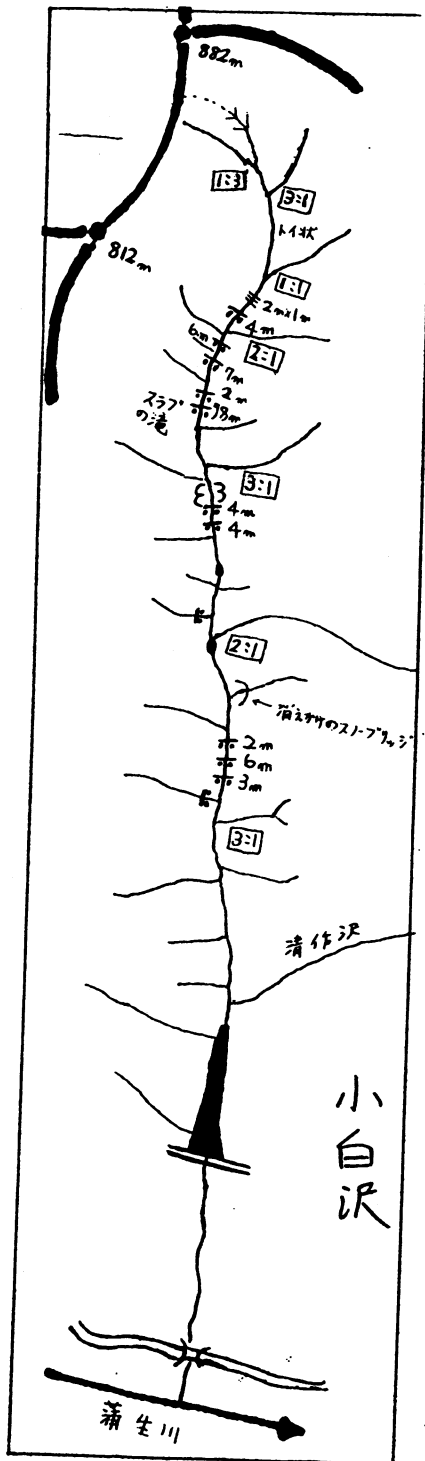
クションを頼りにへつる。しかし水は温く、危険はあまり感じない。へつりの練習といった趣である。

続く7mの釜をもった滝は、右側を登る。ここは帰りに松沢さんの指導でアップザイレンの訓練に使い、プールでは泳いだ。

以後も平坦な流れが続くが、左から本流の3分の1程度の水量をもつ支沢を合わせると谷も狭まってくる。地図上の二俣からは、急に傾斜がきつくなった。

水量の少ない左の沢にルートを取り、滝をいくつか越える。やっと源流の雰囲気が出てきた所で、3





段連続の滝。下から7m, 10mと続き, 最上段は全貌がみてとれず高さがわからない。沢はここで一気に高度を上げている。

最下段の7mは越えたが, 次の10mが越せない。高捲きをしようにも取付き部の草付の状態が悪い。結局壁に咲いたヒメサユリに見送られて撤退することになった。

(記・.....)

[タイム] 林道終点(8:05)→プール(8:30)→二俣(9:40)→遡行終了(10:10)

蒲生川支流小白沢

1996年7月28日

L.....

小白沢にかかる橋から入渓。すぐに堰堤。その上は広いプールになっているので, 右岸のヤブをこいで通過する。1時間ほど河原歩きをしたところで, やっと3m, 6m, 2mの滝が出てくる。以後はナメ状となり, 歩きやすい。

さらに1時間ほどの歩きで谷が開け, この山塊特有の, 雪で削られてツルツルした岩の上から水が流れ落ちているスラブの滝に出会う。ここだけは左岸を高捲く。以後滝の連続で, あきない。

最後の滝(2m×1mのナメ)を越すと, 1:1の二俣になり, 左沢にルートをとる。沢は岩盤に足の幅くらいの浅い溝を掘ってトイ状にながれ, 急激に高度を上げている。昨日の二の舞の引返ししかと思ったが, 宍戸さんは事もなげに登ってゆく。最後の二俣は右にルートをとるが, 水量はトイを湿ら